TADOKU JUNIOR　イソップ物語　★★★☆☆ ふつう　286語

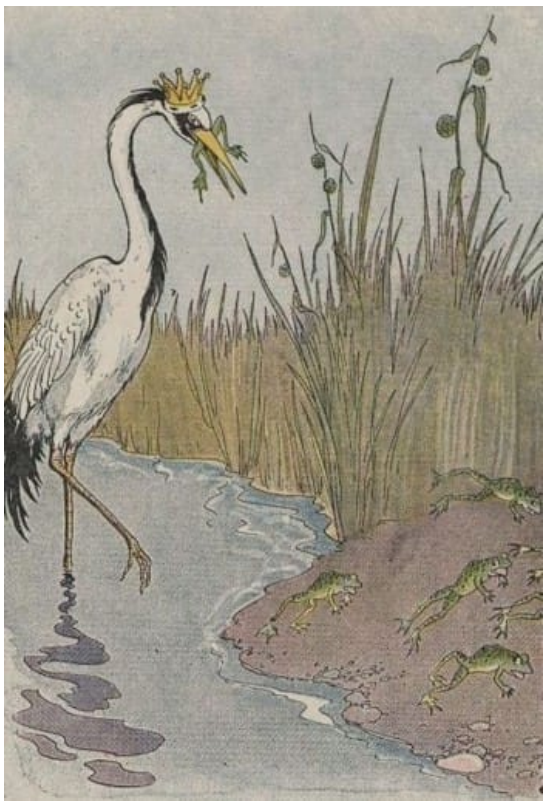
The Frogs Who Wished for a King

王さまをほしがったカエル

Aesop（1919年の本）　原文そのまま　朗読：Claire Schreuder

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　王さまがほしいとねがったカエルたち。ジュピターさまがさいしょにくれたのは、うごかない丸太でした。つぎにくれたのは……。



The Frogs were tired of governing themselves. They had so much freedom that it had spoiled them, and they did nothing but sit around croaking in a bored manner and wishing for a government that could entertain them with the pomp and display of royalty, and rule them in a way to make them know they were being ruled. No milk and water government for them, they declared. So they sent a petition to Jupiter asking for a king.

Jupiter saw what simple and foolish creatures they were, but to keep them quiet and make them think they had a king he threw down a huge log, which fell into the water with a great splash. The Frogs hid themselves among the reeds and

grasses, thinking the new king to be some fearful giant. But they soon discovered how tame and peaceable King Log was. In a short time the younger Frogs were using him for a diving platform, while the older Frogs made him a meeting place, where they complained loudly to Jupiter about the government.

To teach the Frogs a lesson the ruler of the gods now sent a Crane to be king of Frogland. The Crane proved to be a very different sort of king from old King Log. He gobbled up the poor Frogs right and left and they soon saw what fools they had been. In mournful croaks they begged Jupiter to take away the cruel tyrant before they should all be destroyed.

"How now!" cried Jupiter "Are you not yet content? You have what you asked for and so you have only yourselves to blame for your misfortunes."

> **Be sure you can better your condition before you seek to change.**

カエルたちは、自分たちのことを自分たちできめるのに、あきあきしていました。あまりに自由すぎて、わがままになってしまい、たいくつそうにケロケロ鳴いてすわっているばかり。そして、王さまらしいはなやかさで楽しませてくれて、「おさめられている」とわかるようにおさめてくれる王さまがほしい、とねがっていました。たよりない王さまなんて、いらないよ、とカエルたちは言いました。そこでカエルたちは、ジュピターさまに王さまがほしいとおねがいを送りました。

ジュピターさまは、カエルたちがなんて考えのたりないおろかな生きものだろうと思いましたが、しずかにさせて、王さまがいると思わせるために、大きな丸太をなげおとしました。丸太は大きな水しぶきを上げて、池におちました。カエルたちは、新しい王さまはおそろしい大男にちがいないと思って、アシや草のかげにかくれました。でもすぐに、丸太の王さまがとてもおとなしく、しずかだということがわかりました。まもなく、わかいカエルたちは丸太の王さまをとびこみ台にしてあそび、年よりのカエルたちは集まり場所にして、王さまのことでジュピターさまに大声でもんくを言うようになりました。

カエルたちにわからせるため、神さまたちの王であるジュピターさまは、こんどはツルをカエルの国の王さまとして送りました。ツルは、丸太の王さまとはまったくちがう王さまでした。ツルはかわいそうなカエルたちを、かたっぱしからぱくぱく食べてしまったので、カエルたちはすぐに、自分たちがどんなにおろかだったかに気づきました。カエルたちは悲しそうな声で、みんな食べられてしまう前に、ひどい王さまをつれていってくださいと、ジュピターさまにたのみました。

「なんだと！」とジュピターさまはさけびました。「まだまんぞくしないのか？ほしがったものを手に入れたのだから、こまったことになっても、自分たちのせいだよ。」

> **今よりよくなるとたしかめてから、かえるようにしなさい。**

たんご と クイズ 王さまをほしがったカエル

Frogs カエル	**king** 王さま	**log** 丸太
water 水	**reeds** アシ（水べの草）	**giant** 大男、きょじん
Crane ツル		

Q1 ジュピターさまが、さいしょにくれた王さまは？

① ツル　② 丸太　③ 大きなカエル

Q2 2ばんめの王さまは、何だった？

① ヘビ　② ワシ　③ ツル

こたえ

Q1 ② さいしょは大きな丸太をなげおとしました。とてもおとなしくて、カエルたちはとびこみ台にしてあそびました。

Q2 ③ 2ばんめには、ジュピターさまはツルを送りました。ツルはカエルたちをかたっぱしからぱくぱく食べてしまいました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典 英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #19994（Aesop、1919年）。パブリックドメイン。
挿絵：Milo Winter（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Claire Schreuder（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。